

日本化粧品学会

第47回 教育セミナー プログラム

老化について考える ～原因追究から治療まで、不変の課題への挑戦～

ご挨拶

長寿社会を迎えた令和の時代、多くの方が長く健康でいたい、いつまでもまわりから若いと言われたい、美しく健康な肌を保ちたいと願い、医療界、化粧品業界でもアンチエイジング（抗老化）のニーズがますます高まってきています。一方で、光環境下で生活する人間にとって加齢に伴う老化の進行は簡単に止められるものではありません。

そこで 2022 年の教育セミナーは『老化』をテーマにいたしました。今回、老化の概念や分子機構に関する最新の考え方から皮膚老化の最先端治療まで、様々な分野から 6 名の専門家にご講演いただきます。どうすれば健康寿命を延ばすことができるのか、どうすれば美肌を長く保てるのかはまだまだ医療界、化粧品業界が挑戦すべき重要な課題です。今回のセミナーから得られる多くの知見が皆様の今後の新たなアンチエイジング化粧品や治療法の開発に役立ちますことを祈念いたします。

今年の教育セミナーも昨年同様、いまだ完全終息に至らない新型コロナウイルス感染リスクを考慮しての WEB 開催となりますが、11/2 から 4 日間のオンデマンド配信ですので自由な時間での聴講や繰り返し聴講も可能です。ご参加の皆様におかれましては、ぜひ本セミナーにて老化研究やアンチエイジング対策・治療の新しい潮流を体験していただきたく存じます。

学術委員長 森脇 真一

日本化粧品学会 第47回教育セミナー プログラム

1. 生物はなぜ死ぬのかーゲノムの不安定化からの考察
小林武彦 (東京大学)
2. 細胞老化から個体老化へ ～糖鎖から見た老化の世界～
豊田雅士
(東京都健康長寿医療センター研究所)
3. 光老化とその予防について
～サンスクリーン製品の新規効果表現に関するガイドライン(2021)含む～
森田明理 (名古屋市立大学)
4. しみのメカニズムから治療まで
船坂陽子 (日本医科大学)
5. しわ・たるみのメカニズムから治療まで:開業医の立場から
宮田成章 (みやた形成外科・皮ふクリニック)
6. 「見た目の老化」に対する化粧品領域の取り組み
江連智暢 (資生堂)

開催概要：WEB 開催（オンデマンド配信：2022年11月2日（水）～5日（土））

参加費：会 員	12,000 円
非会員	17,000 円
学生会員	1,000 円（要学生証提示）
学生非会員	2,000 円（要学生証提示）

*ご所属が賛助会員の場合、個人会員と同じく12,000円でご参加いただけます。

*詳細は HP をご覧ください。

参加申込方法：

学会ホームページ（<http://www.jcss.jp/event/seminar>）より
事前登録

参加費支払い；郵便振替もしくはクレジット決済

※一旦払い込まれた参加費は払い戻しできません。

参加申込開始：2022年9月1日（木）予定

連絡先：

日本化粧品学会 教育セミナー事務局
〒162-0801

東京都新宿区山吹町358-5

アカデミーセンター

TEL. 03-6824-9367

FAX. 03-5227-8632

E-mail. jcs-semi@conf.bunken.co.jp

POINTS OF INTEREST!

生物はなぜ死ぬのかーゲノムの不安定化からの考察

[小林 武彦 先生]

私たちは偶然この世に生を受けました。女性だったり、男性だったり、人間であることも偶然です。しかし生物は生まれたら必ず死にます。死は必然であり逃れることはできません。それでは人はどのように老化や死を理解し、それらと向き合えばいいのでしょうか？ゲノムのお話を中心に、生物学的な見知から生物の死の意味について考えてみます。

細胞老化から個体老化へ ～糖鎖から見た老化の世界～

[豊田 雅士 先生]

細胞は各器官の独自機能維持のため環境変化に応じて常に変化する。しかし細胞には寿命がありいずれ分裂能を失った細胞老化に陥る。こうした老化細胞の蓄積は、炎症を惹起し組織機能の低下、さらに疾患発症へとつながり、個体老化に影響を及ぼす。糖鎖は細胞表層を覆い多様な生物活性に関与し、細胞の顔と呼ばれる。つまり細胞の変化は糖鎖構造やその機能と相関する。本セミナーでは、細胞の表情（糖鎖）が老化過程でどう変化するか、私たちの研究を紹介しつつ最新の情報を紹介したい。

光老化とその予防について

～サンスクリーン製品の新規効能表現に関するガイドライン（2021）含む～

[森田 明理 先生]

2016年から開始された光老化啓発プロジェクトとして、「皮膚の光老化とその予防に関するコンセンサスステートメント」の策定から、光老化の認知度を高め、紫外線防御、サンスクリーン剤の使用による光老化予防効果について、理解を深めてもらうような活動を続けてきた。さらに、現在、サンスクリーン製品の新規効能表現（抗光老化）に関するガイドライン改訂検討委員会において、「光老化を防ぐ」という新規効能表示についての検討をすすめている。

POINTS OF INTEREST!

しみのメカニズムから治療まで

[船坂 陽子 先生]

顔面にみられるしみとしては老人性色素斑、肝斑、ADM(acquired dermal melanocytosis)、炎症後色素沈着などがあげられる。いずれも紫外線曝露が悪化因子としてあげられる。生検皮膚を用いた解析により、病変皮膚の各種細胞が健常皮膚とは異なる分子の発現制御を受けていることが明らかになっている。美白作用を有するビタミン剤などの内服、外用、ケミカルピーリング、Intense Pulsed Lightなどの光治療、レーザー治療が、それぞれの病態に応じて治療として用いられている。ハイドロキノンに勝る治療効果があると最近報告されている新規美白剤の作用機序などについても紹介したい。

しわ・たるみのメカニズムから治療まで:開業医の立場から

[宮田 成章 先生]

美容医療において、しわ・たるみの治療は近年大きな飛躍を遂げた分野である。現在までに皮膚のみではなく、皮下脂肪、骨の構造変化やそれを支える支持靭帯、筋膜、筋肉までの加齢性変化が解明され、ダイナミックに治療をおこなうことが主流となってきた。解剖学的見地から顔面の加齢性変化を解説し、今現在どのようなことができるのか機器治療やヒアルロン酸注入などの最先端の情報を提供したい。

「見た目の老化」に対する化粧品領域の取り組み

[江連 智暢 先生]

加齢に伴い顔の見た目は大きく変化し、多くの人の悩みとなっています。その大きな原因のひとつに、肌が重力で下垂する「たるみ」が挙げられます。このたるみに対して、化粧品領域では様々な取り組みが進められています。たるみの実態の把握、主に皮膚科学的観点からの原因の探索、化粧品領域の特徴を生かした美容用や美容器具、形状補正機能を持つ基剤の開発等、多岐にわたります。化粧品領域での取り組みを紹介させていただきます。